

認知症は早期発見・診断・治療が大切です

認知症はどうせ治らない病気だから医療機関に行っても仕方ないという人がいますが、これは誤った考えです。認知症についても早期受診、早期診断、早期治療は非常に重要です。

治る病気や一時的な症状の場合がある。

他の病気によって認知症状が引き起こされる場合があります。その場合、手術や内科的な治療で原因となる病気が治り、認知症状も改善されます。治る病気が隠れていることがあります。

治る病気の例: 正常圧水頭症・脳腫瘍・甲状腺ホルモン異常等

早期に治療をすれば治る病気もあるため、はじめから治らないと決めつけず、専門医を受診し、正しい診断をうけることが大切です。

早期に受診することのメリット

進行を遅らせることができる認知症ならば、早期に薬を使い始めることや介護保険サービスを使うことで、症状を穏やかにすることができ、健康な時間を長く過ごすことができます。また、病気が理解できる時点でどう向き合っていくか、今後の生活をどのようにしていくのか専門家の意見を聞きながら、いろいろな準備や手配をしておけば、認知症であっても自分らしい生き方をすることが可能です。

初期は専門の医療機関での受診が不可欠です

認知症の診断は初期ほど難しく、高度な検査機器と熟練した技術を要する検査が必要です。専門の医療機関への受診が不可欠です。



本人が受診を拒むことも

あります

もの忘れのある高齢者は、自分が以前と違う、何かおかしい、と気づいています。そして、これからどうなってしまうのか、不安でいっぱいなのです。だから、強引に受診を勧めても頑なに拒むこともあります。また、受診ができてても積極的な治療に繋がらないこともあります。

認知症という病気につらい思いをしている本人の気持ちを理解し、また家族の心配な気持ちを分かってもらう努力も必要です。お互いの気持ちを理解し合えたら、本人の安心に繋がります。

受診が難しい場合は、まず家族だけで、かかりつけ医や地域包括支援センターなどに相談し、医療のプロ・介護の専門職に協力してもらいましょう。

かかりつけ医に受診されるときは、できれば身近な家族が複数付き添うと良いでしょう。